

---

# リリカル世界でアリシア転生憑依

白い狐が好きです

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リリカル世界でアリシア転生憑依

### 【Zコード】

N7176L

### 【作者名】

白い狐が好きです

### 【あらすじ】

神の暇つぶしで転生した先は、死んだはずの少女。

自分以外にも転生者がいる世界で彼女がの望むのはなにか？

「何も望まないですから、平和に（原作に介入せずに）過ごさせて  
欲しいです・・・」

## 1、プロローグ（前書き）

続くかどうか分かりませんが、よろしくお願いします。

## 1、プロローグ

「ああ、四人目の転生者よダーツを投げるのじゃ！」

「はあ？」

さて、わけのわからない場所から始まして、先日死んだはずの社会人男性（20）です。

死因は、成人式で初めて飲んだお酒に酔いつぶれて車に・・・あ〜、こんなのに聞いてもつまらないですよね。

現実逃避はこれぐらいにして現状を説明したほうがいいでしょうか。簡単にいいますと、田の前に髪をはやしたじいさんと、3つの宝くじでよく見るルーレットがあります以上。

「お〜い、やつをと投げてくれんかの〜？」

「いや、投げなつて言われたつて分けがわからないんだが?!」

「お〜い、そ〜じやつたそ〜じやつた四人目じやからつこつい説明したつもりになつておつたわ〜」

「四人目？」

「ふむ~、それも含めて一から説明するもの面倒じゃなダイジエスト説明でいいじゃろ~、かくかくしかじか・・・以下省略じゃ！」

なんかかなり省略されたきがするが、簡単になると、

じいさん=神

ここにいる理由=転生させるため（素質がある人間を故意に死んでもらひつれてきたのじゃ）

四人目?=他に3人これから行く世界にすでに転生させている

なぜ転生させるのか?=流行にのつて暇つぶし

どこの世界に行くのか?=リリカルなのは世界（四人も転生者が介入するため世界独自の設定になつてているのであまり原作があてにならない場合もあるので気にしてたらきりが無いらしい）

なにをさせるのか?=なにをしてもいいけど世界を壊しかねないことはしないで欲しい（例）いくらむかついても世界の要の一つである管理局など潰してはだめ

転生特典とかあるの?=3つのルーレットで決定（全員がチート転生だとつまらないからランダムにしてみたのじゃ！）

以上！

「どうじゃー転生してなおかつアニメの世界に行けるのじゃ嬉しいじゃね？」

「ああそつだな。まあ、とりあえずお前を殴る……。」

「ちょひ、待つじゃ！ 止めるのじゃーーー！」

「成人式を迎えてこれからって時に故意に死なせたんだから殴られるだけで済むのに感謝しろ」

「暴力反対じゃ、痛いのはいやじゃ他の人間は喜んで転生していくたのになぜじゃ」

「普通に考えればわかる」とだらうがー」

「ふむー、そういうもののかじや、分かつたのじゃ先に行つた人間には悪いがお主には特別に一つだけどんな願いでも叶えてやるのじゃーーーーだから、殴るのだけは止めて欲しいのじゃが？」

「つちーーーーもう死んじまつたものは仕方ないか、アニメの世界つてのも興味があるしポジティブに考えないと損するしなーーー！」

「お主、性格が少しかわってないないかの？」

「これが素だ、気にするな

「まあいいかの、それじゃ先ず3つのルーレットからやつてしまひかの」

「確かに、能力全てがあれでできるんだったか？」

「そうじゃ、ちなみに1つ目が力、2つ目がデバイス、3つ目がレスキルになつておるから」

なるほど、リリカル世界にあわせた能力設定になつてゐらしげな。

つてことは、力は魔力総量、デバイスはインテリジョン等、レアスキルは固有能力つてわけになるのか。

「なあ一つ聞いていいか？」

「なんじゃ？」

「なんで何も書いてないんだあれ？」

「書いてあつたらおもしろくないじゃろ。なに、刺さつたら何が書いてるか読めるようになるから気にする必要は無いのじゃ」

「まあ、最初から何があるかわかつてたらおもしろくないか」

「そうじゃ、じゃからさつと投げるのじゃー。」

「んじゃま、早速投げますか。てい（ふす）、とう（ふす）、おりや（ふす）。・・・おつ、なんか浮かんできたな

「ふむ、どれどれなのじゃ・・・」

「どんな感じだ?」

「お主・・・生前はもの凄い強運のもちぬしだったのか?」

「あ〜、宝くじとか賭け事とかそれなりだつたかな」

「なるほどの・・・それにしてもこれはかなりチートじゃな」

「そんなにか?」

「やうじや、本当は9割9部9里ほどひよつと強い程度にしかならないはずじやつたのじゃがこれはの・・・」

「残りの一里を引き当てたつて」とか

「まあいいのじゃ、これはこれでおもしろくなつやうじやしの」

「それで、どんな能力になつたんだ?」

「ん、ちよつと待つのじゃ今渡すのじゃ、ほれ」

「どれどれ、俺の能力はどんな感じに、

魔力=オーバーS(妖力込み)

デバイス＝ユニゾンデバイス（マスター専用）

レアスキル＝AMF（Aランク以下無効）

・・・

「・・・とりあえず一つずつ聞いていいか？」

「かまわぬぞ」

「オーバーSは分かるが妖力ってなんだ？」

「人外の力の総称じゃな」

「ユニゾンデバイスのマスター専用ってのは？」

「完全な専用機とすることによって、能力の上昇値を大幅に上げるのじゃ。じゃからかなり強いぞ？ まあ、その代わりなんじゃがマスターが死んだ場合、デバイスも消滅してしまうがの」

「AMFってのは、やっぱりあれと一緒か？」

「少し違うの、あれは魔法全てに効果があったみたいじゃが、おぬしのは、自分の魔法は普通に使え敵の攻撃のみ効果があるのじゃ」

「俺は人外になるのか？」

「半妖になるじゃろな」

「・・・」

「・・・まあなんじゃ、チートな能力じゃしそれにあの世界には普通におるしそれほど気にする」ともないじゃう」

「そつこいえばそつだつたな。なら、気にして仕方ないか」

「そうじやそうじや」

「なんにせよ、人外になつちまつが確かにこれはチートだな」

「つむ、他の人間はいたつて普通にちょっと強い程度じやつたしの」

「ちなみにどんな感じだつたんだ？」

「なに、魔力＝AAA、テバイス＝インテリ、レアスキル＝属性変換とな主人公達とそほぞ変わらなかつたの」

「いやいやいや、確かあの世界だと主人公達も十分異常だつたはずだが・・・」

「あれはの、主人公補正という隠れレアスキルのおかげじゃからの。ちなみに、お主達転生者にはついておらぬから」

「なるほどな」

「つむ、能力も決まつたことじやし最後に約束どつり一つだけ願い事を叶えてやるつむ、なんでも言つてみるがいいのじや大抵のことは叶えてやれるだ」

「そうだな・・・俺の性別を女性にしてくれるか?」

「むほ！ なぜじや？」

「いやな、これから行く世界つてリリカル世界なんだろ?」

「そうじや、先に行つた人間はハーレムを作るぞとかいつて張り切るぐらい美少女、美女がいっぱいある男にとつては夢のよつな世界じやぞ?」

「まあ確かに皆かわいかつたんだが・・・、俺が気にしているのはそこじやないんだよ」

「ふむ?」

「ヤンデレ率が高すぎるー 他のううとか見てみろよあれ、ハーレム状態に仮にでもなつてみろ魔法の集中砲火を食らつて傷と気絶の絶えない状態になりかねん」

「確かにのー、あの世界の女性は異様に強かつたの」

「それに俺は、ハーレムなんぞに興味は無い。 興味があるのは、魔法とかだけで原作も興味ない」

「なんじや、せつかくあれだけの力があるのに原作介入もしないつもりかの?」

「しないな」

「なんじゃつまらんの~」

「つまらなくて結構だ」

「・・・まあいいかの、それじゃ願いはそれで叶えておくから準備はいいかの?」「

「ああ、わかつた」

「でせーべのじゅー！」

さてさて、原作とかほつ についてのんびりとリリカル世界を楽しんで  
くるかな。

「 そうじゃ、言ひ忘れておつたが原作介入はお主の意思での回避は不可能じゃからの 」

「なつ！」

「他の人間と一緒に原作ブレイクをしてわしを楽しむのじゃ！」W

「ふざけるな～～～～～！」

～～転生から30年後～～

転生から30年、やつてきました管理外世界『地球』。そして、物語の舞台『鳴海の地』

「初めまして、アリシア＝アルハザードです！」

俺の意思とは関係なく始まる物語

リリカルアリシア始まりま・・・つて欲しくないな・・・。

つづく？



## 1、プロローグ（後書き）

作者「あとがきって何かいたらいいんだろ?」

アリシア「今日は最初なんだし、この作品の注意事項でいいと思つよ?」

作者「そうだな、では。続くかどうか分かりません、オリジナル設定が入っています、主人公達のセリフがおかしい、全部のなのはシリーズを見ていますがうろ覚えです、戦闘シーンは苦手です、他にも色々ありますがご容赦ください。つてなとこりでどうだろ?」

アリシア「最初だし、いいんじゃないかなこれで」

作者「こんな感じで、ぐだぐだになりそつですがよろしくお願ひします」

アリシア「よろしくね~」

## 2、主人公アリシアの詳細設定を追加してチート化しよう！

作者「さて、今日は主人公の設定を紹介しておこうと思つ。」

アリシア「まだ、プロローグしか載せてないのにいいの？」

作者「前回のプロローグに書いた設定だけではチートっぽくなかったからな、本編が始まる前に詳細設定を追加してチート化しようと思つた。」

アリシア「あれ以上、わたしはいらないんだけど…。」

作者「アリシアの言いぶんは聞かん！　俺と神が楽しめないからなｗ。　つてなわけで追加分開示～。」

### アリシア・アルハザード詳細設定

本編無印にて虚数空間にプレシアと共に落ちた後、過去のアルハザードにたどり着きアルハザードの違法研究者による超技術と流れ着いた転生者の魂が宿り復活。（プレシアはたどりつけなかつた）

死者蘇生の実験のため、劣化が進んでいた肉体を強化するため九尾の狐の遺伝子とベルカの聖王の遺伝子を投与された。（この小説では、とらはの久遠とベルカの聖王家は元々はアルハザードの技術の産物設定になっています。補足：アリシアは大本の遺伝子を直接投与されたため久遠と違ひ九尾の妖狐、聖王はヴィヴィオのオリジナルであるオリヴィエより上）

復活後の記憶などは、死ぬ以前のアリシアの記憶と転生前の記憶を有し、フレシアに対してもこちらの母親だと認識しているがフェイトは妹というより主人公の一人という程度。（今後の展開しだいではどうなるかわからない）

テスター・ロッサを名乗らないのは、自分がアリシアであつてアリシアでないためで、フレシアのことは母親だったといえるがそれはアリシアにとつてなので転生して乗つ取つてしまつた今のアリシアである自分が名乗つていいものではないと思つたため。

アルハザードを名乗つているのは、違法研究者の研究による死者蘇生に成功体であつたアリシアをアルハザード王家が保護し迎え入れたため。

リリカル世界に送られる直前に、神に原作からは逃げられないと言われ介入がほぼ確定していることに若干鬱になつていて。（主人公はファンタジーが好きなだけで登場人物とか原作はそれほど興味がない）

九尾の遺伝子が混ざつたせいなのか、アルハザードについてから30年たつていても関わらず原作登場時の姿のまま。（狐耳と尻尾が生え髪は白くなつた）

聖王の遺伝子も混ざつたため、目は金と銀の虹彩異色、魔力光は虹色。

とりあえず、過去のアルハザードにて30年生きていたが色々とあり、もといた時代に戻つたほうが良いと王家のの人達と相談、時空転移魔法で時と世界を超えて鳴海の地に戻つてくるところから物語が

始まる。（時を越えるつもりはなかつたが超えた、ぶつちやけ小説補正、アルハザード時代は外伝でかけたらしいな～）

### アリシア・アルハザードのステータス

転生した男が性転換を希望したため誕生した存在（裏設定 本当は性転換の設定は無く女でそのままアリシアになつた）（アリシアを主体にしたかつたんです）設定だつたが、他の転生者3名が男（神が男女のもつれによる制裁というなのOHANASIが見たかつた）だつたので一人だけ女だとバランスとかが変かなと思い性転換設定が入つた）

年齢＝転生後30歳（見た目は5歳、精神年齢も肉体にひつぱられ  
氣味）

B＝5歳児、W＝5歳児、H＝5歳児

容姿＝白い髪に、金と銀の虹彩異色、狐耳より後ろに髪を結んだツインテール、狐耳と尻尾1本（普段は出さないようにしてるので知つてゐる人だけしかいない場合は面倒なので出しつぱなし）で戦闘時のみ9本（全体はフェイドを幼くした感じで、細々と変わつただけ）

性格＝元気で明るいアリシアと自分が気に入らないことや興味のあることには積極的だけど、興味が無いものや干渉したくない場合は消極的で暗い転生者（男）がまじり、積極的で明るくて消極的で暗く場に流されやすいというわけのわからない性格になつた。（転生して30年もたつてるので時々男らしくなるけど、前よりも長い女としての生活のおかげで女性の思考になつた）

身体能力＝妖狐と聖王の遺伝子のおかげで高い。だけど、5歳程度なので…（それでも普通の成人男性並み、左利きだったが両利きになつた）

魔力＝オーバーS（妖力込み）

魔力光＝虹色

魔法陣＝アルハザード式（形はベルカ式に近いけどよくよく見ると色々ちがう）

バリアジャケット＝へそ出しミニスカ巫女服（袖は指先が隠れるほど長く、尻尾を出すために腰周りを開けたためへそだし状態、へそ出しに長い袴は合わなかつたのでスカートに変更（パンツルックを最初考えたが（まだ男の意識が強かつたため）王家のの人達が反対し、最終的に泣き落としされスカートになつた））

デバイス＝ユニゾンデバイス（管理人格は何故か久遠にそつくり、管理人格を実体化させてならぶと姉妹に見え、身長で負っているため妹扱いされる）、アームドデバイス（形状はバリアジャケットに合わせて祈祷用のアレを機械化した感じ、カートリッジは先端についている紙（妖力を込めてます））

レアスキル＝AMF（Aランク以下の魔力攻撃無効）、一時的な成長＝妖狐の遺伝子のおかげか、妖力全開で見た目が10歳になるほど成長できる（成長にあわせて身体能力と魔力、AMFの効果が上昇。但し、妖力がガリガリ削れらていくため3分が限界）、（通称）聖王の鎧（聖王の遺伝子により発現。但し、アルハザード時代には聖王もベル力もなかつたのでアリシアがそう呼んでるだけ）

補足 原作人物をどう思っているか（無印とA'sのみストライカー  
ズは多すぎて覚えていない）＝無印＝未来の魔王様、すく水痴女、  
淫獣、赤い犬、KY、腹黒甘党艦長、普通な子、紫、裸幼女、バー  
ニング、夜の一族、戦闘一家、作中最強は奥さんあなたです A  
s＝バトルマニア、ちっちゃいけど一番まともな子、殺人料理人、  
青い犬、狸、渋い叔父様、強かつたのにKYにあっけなく捕まつた  
猫、救つてあげたいヒロイン

補足2 無印とA'sのキャラの女性にそろつて思うこと＝愛情に飢  
えた狼、ヤンデレ化して襲つてきそう（性転換を望んだ理由、自分  
も女なら酷い目にあわないだろ？）といつ考え

（補足はどちらも主人公であるアリシア視点での考えになつていま  
す）

## ユニゾン時

容姿＝髪と狐耳と尻尾が金色になり妖力の消費無しで10歳フォー  
ムを維持（まんまフェイト嬢に狐耳と尻尾が生えた感じ、耳と尻尾  
が隠せなくなる。 体に負担がかかるためあまり長時間のユニゾン  
はできない）

B＝フェイト、W＝フェイト、H＝フェイト

身体能力＝10歳程度に上昇（妖狐と聖王の遺伝子のおかげで強い  
成人男性より上）

魔力＝SSS相当（妖力込み）

レアスキル＝AMF（AAAランク以下の魔力攻撃無効）、一時的な成長＝使用不可（成長するには妖力が足りない）、（通称）聖王の鎧（変化無し）

ふるぢらいぶ（ユニゾン時のみ使用可能、体にかかる負担が大きすぎるため使用後は全身筋肉痛になりしばらくは動くのもままならない）

容姿＝髪と狐耳と尻尾が黒色に変化し20歳前後まで成長（大人版フェイエト嬢を黒く以下略）

B＝ストライカーズ、W＝ストライカーズ、H＝ストライカーズ

身体能力＝20歳程度に上昇（ふるぢらいぶの影響と、妖狐と聖王の遺伝子のおかげなのか何故か御神の神速が連續で使用出来るほど上昇）

魔力＝SSS相当（妖力込み）

バリアジャケット＝袴の色が藍色になる

デバイス＝アームドデバイスの形状が錫杖になる

レアスキル＝AMF（AAAランク以下の魔力攻撃無効）、一時的な成長＝使用不可（成長限界のため）、（通称）聖王の鎧（レリック装備の聖王ヴィヴィオと同等になる）

作者「まあ30年もアルハザードで生きていたからフルドライブも完備の設定にしてみた。」

アリシア「うう…こんなに能力いらないよ…特にふるどりいぶ時のAMFとか聖王の鎧とか！」

作者「何を言ひ、このAMFのうえ聖王の鎧に、強化されたバリアジャケットとプロテクションがつくから実質、第3期聖王モードのヴィヴィオに止めをさしたなのは嬢の攻撃さえ効かないという防御面においては最強の安全設計で良いではないか！」

アリシア「…………」

作者「あいや、反応が無くなっちまつたか、まあいや。」

作者「まあ、こんな感じで設定したんだが主人公のアリシアはあまり乗り気じゃないからな本編ではどう絡んでいくか作者の俺もわからん！」

作者「他の転生者もどうなるかわからんし、こんな感じでも付き合つてくれたらうれしいぞ！」

作者「次回があつたらまた会おつ！ では、さらばだ！…」

アリシア「……あれ？ 防御は完璧だけど、わたしの攻撃手段とかはどうなつてるの？」

3、神はわたしを見捨て……てたよね。（前書き）

きりがよせやうな所で終わらしたら短くなつた〇〇

### 3、神はわたしを見捨て……てたよね。

「知らない天井だ。」

本編では初めまして、アリシア・アルハザードです。

いきなり変なことを口走つてますが言わないといけない気がしたので言つてみましたw。

「冗談は置いといへ、ここはいつたいどこへ？」

「アリシア？　目、覚めた？」

「久遠？」

わたしが寝ていたベッド（ものすごく気持ちよくて高級っぽい）の横に30年の付き合いになるわたしが神からもらつたユニゾンデバイスの管理人格である久遠が嬉しそうにしていました。

（名前の由来とかは、姿がとらはの久遠そのままだったからついついつけちゃつたんだよね……）

「アリシア良かつた、目が覚めて」

「心配かけちゃつたみたいだね、ごめんね久遠」

「いい、アリシアが起きたから」

本当に良い子です久遠は、あの神がくれたとは思えないほどです。  
ただ、神の嫌がらせなのかわたしより身長が高いのが気になります  
が……。

「ありがとね久遠、……それで久遠ここは

「あら？ アリシアやつと目が覚めたのね」

「はい？」

……ふう、冷静になれアリシア＝アルハザード、今日の前にいるのは断じて違う、違うたらちがうんだからねー

「えつと……」

「ああ名前ね、そこにはいる久遠に聞いたのよ。」

「そうなんですか、それで」

「」」うちだけ名前を知ってるのもあれよね、アタシはアリサ、アリサ・バニングスよアリサって呼んでもらってかまわないわアタシもアルハザードって呼び難いから勝手に名前でよんでもるしね」

「……やっぱりアリサでしたか、原作に介入したくないわたしは神に嫌われているんでしょうか？……そういえば、わたしを送り込んだのはその神でしたね……」

「起きて早々で悪いんだけど、聞いていいかしり？」

「なんでしょうか？」

「その、『耳』と『尻尾』ってやっぱり本物よね？」

「……」

（気がついて早々、現状もわからない状態で原作キャラとの遭遇、さらにはいきなり『耳』と『尻尾』がばれちゃいました……どうしましょ？）

#### 4、原作介入より大変な事態です。

前回は会いたくなかった原作キャラとの遭遇。さらにわたしの正体がばれちゃいましたw……鬱です死にたいです……。

「なるほどね、魔法があつてアリシアは九尾の妖狐と人間のハーフになるのね。」

「あれ？ 信じちゃうんですか？ 自分で言つてあれですけど現実離れした話ですよ？」

「そりやね、いきなり魔法とか言われても信じられないけど……、『耳』と『尻尾』が生えた本人が目の前にいるし……それに、助けてくれた時に本とかに出てくる魔法陣みたいなのが見えたしね」

「あはは、そうですよね。」

はい、バラシちゃいましたw。いやいやいや、目の前に『耳』と『尻尾』が生えた女の子がいて、さらに、出たり消えたり出来る久遠がいる時点で言い訳なんかできるわけがないんです。

さらには、わたしはアリサを誘拐犯から魔法で助けたみたいですね。

「こきなり空から女の子が降ってきたのには驚いたわよ。」

どうやら、時空転移魔法の誤差でこの世界の空の上に出てきたみたいで、そこから重力に引かれて自由落下、わたしは気絶していく使用者本人の制御が必要な飛行魔法が展開できなかつたらしく、ダメージを最小限におさえるためにプロテクションとバリアジャケットを久遠が展開、そして落ちた先にアリサを誘拐した誘拐犯がいたらしくそのまま衝突、いくら防御用の魔法でも空の上からの落下速度が加わった威力はかなりのものだつたらしく誘拐犯は気絶（衝突直前に純粋な魔力放出で衝撃を和らげたらしい）それから救助され今にいたるそうです。

はい皆さんここで問題です！ 誘拐されたのはアリサ一人だつたでしょうか？ これだけだと分からないのでヒントです、これはリリカル世界です。

わかりましたか？ わかつた人もわからなかつた人も正解をお教えします。それでは正解は……NOですw！

「覚えてないかもしねりだけど、あの場にはアタシ以外にパパと、友達のすずかって子とそのお姉さんの忍さん、助けに来てくれた別の友達のお兄さんの恭也さんもいたのよね、それで色々聞きたいらしくて田が覚めたら連絡してほしいって言われているのよ。」

……EHHってなんで青いんでしょう。

……神よあなたをいつか殴りに行きたいと思ひますので、首を洗つてまつてください。

……現実逃避しそうのは良くありませんね、腹をくくり現状を受け入れましょ。

……ですが、その前に一言言わせてください。

「神と世界は無情なり……」

「……」

アリサと久遠がビックリしていますが気にしません……

わたしののんびり気ままなファンタジーライフを返してください……

アリサだけでなく夜の一族月村姉妹と未来の魔王様の兄君である鬼一様にまで着いて早々ばれるとかこれいかにｗｗ！　つてかアリサのお父様までなぜに誘拐現場にいらっしゃるの？！

「……なんだか色々疲れましたので寝ます。」

「ちよーちよーとー起きなさいよ。」

「アリシア寝るの？ だつたら久遠も寝るー。」

「久遠まで？ー。」

「「お休みなさい。」」

「待ちなさいよー。」」

もつ今回は「れぐらいで許してく下さい、あつたかふわふわお布団  
が夢の世界へ誘うためにわたしを待ってるんですから。

それでは盥せん、また次回までお休みなさい……。」

#### 4、原作介入より大変な事態です。（後書き）

作者「ストックが尽きた。」

アリシア「後先考えずに投稿し続けるからでしょこのバカ作者……。」

作者「アリシアがアリサっぽくなつちまつた。」

アリシア「なによ……。」

作者「まあ落ち着け、ここに夏菜さんがお土産にくれた翠屋のチーズケーキがあるんだが？」

アリシア「チーズケーキ！ 欲しい食べるちょうどいい！ ……ハツ！」

作者「にやにや」

アリシア「そつそれをくれるなら許してあげないこともないよ／＼」

作者「シンデレルー。」

アリシア「シンデレラ言つなー。」

作者「まあ、弄るのもこれぐらいにして……はいこれ。」

アリシア「…………氣のせいかしら、お皿しかなによつに見えるんだけど？」

作者「あつち見てみ？」

アリシア「何よ？」

久遠「はぐはぐはぐはぐ……」  
アリシア「うん。」

アリシア「……。」

作者「美味しかったか久遠？」

久遠「うん！」

作者「じゃあ、夏菜さんにお礼言ひておいたな。」

久遠「夏菜おいしかったありがと。」ペコッ

作者「はい、良く言えました。」

アリシア「……。」

作者「まだ固まってるのな。」

久遠「アリシアかちうら。」シンシン

作者「アリシアは放つておいて締めに入るか、赤坂七夕さん夏菜さん  
e v a n g e l i c

さん感想ありがとうございます、ストックが尽きましたが、  
次を書けるようにがんばりますのでよろしくおねがいします。」

久遠「よろしくね。」

アリシア「チーズケーキ……」

作者「あつ復活した。」

## 5、アリシアのデバイス紹介編

作者「今日は、アリシアのデバイス紹介といこう」と思つ。」

名前＝久遠（特殊型ユニゾンデバイス）

待機形態＝無し（アリシアと一体化するため）

基本形態＝腰まである金色の髪と金色の狐耳と尻尾の生えた5～6歳程度の女の子（アリシアより背が少しだけ高い、他の形態が無いので外ではいつもこの姿）

単独時使用魔法＝雷（魔力変換等ではなく自然界から発生させる）

### 説明文

アリシアが転生時に神から貰つたユニゾンデバイス。

神から貰つたものだからなのか、普通のユニゾンデバイスと違い核となる部分が存在しない、

アルハザードで調べてもらつたが、アリシアと一体化しているらしいとしか分からなかつた。

アリシアと違ひ耳と尻尾を隠せないため、外に出るとときはアリシア

と一体化している、それ以外だと大抵外に出ている。

アリシアとのユニゾン時は攻撃系が苦手なアリシアの変わりに攻撃を担当する。

アームドデバイス

名前＝おはらい君3号

待機形態＝腕輪

基本形態＝お祓い棒

フルドライブ時＝錫杖

カートリッジ＝基本時は妖力を込めた先端の紙、フルドライブ時は使用不可

説明文

アルハザードにてアリシア用に作成してもらったアームドデバイス。

3号とあるように3代目になる相棒、

1代目は、ストレージデバイスだったが、起動実験にて魔力と共に妖力を込めたところ大破、

2代目は、ストレージでは妖力の処理が出来ないことが分かり、インテリジェントデバイスにして妖力のコントロールを出来るようにしたところ、繊細なインテリジェントには合わなかつたらしく人工知能が破損してしまつた、

1代目と2代目の経験から3代目はアームドデバイスになった。

ただ、普通のアームドでは妖力に耐えられないので、妖力に耐えられるように硬さに特化し処理能力向上のため会話機能や本来デバイスに組み込むプログラムなどを排除、

単純に魔法発動の媒体としての機能と鈍器としての使用のみ絞られた無骨なデバイスとなつた。

作者「まあこんな感じだが、後々追加していくことになるだろ? うな」

アリシア「わたしの武器つてプログラム処理とか出来ないんだね。」

作者「まあ、久遠とは常に半ユニーク状態で繋がつてゐるから簡単な魔法は使用できるぞ。」

アリシア「そうなんだ。」

作者「ちなみにアームドデバイス単体でも鈍器としてそこそこ戦えるぞ、魔力と妖力をかなり注ぎ込んでも大丈夫なぐらい丈夫に作られてるから大抵の魔法防御を破壊できるしな。」

久遠「撲殺魔法少女アリシア。」サツー！

アリシア「く~お~ん~!!」ダツ!!

作者「久遠の奴もなかなかやるなw。さて今回はこれぐらいで終わりにしようと思つ、まだ本編は3割ぐらいしか書いてないがなんとか書いてみようと思つのでよろしくだ。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7176/>

---

リリカル世界でアリシア転生憑依

2010年10月10日20時16分発行